

# JA全農ウィークリー

J A Z E N - N O H W E E K L Y

3面

県域の  
「農機事業構想研究会」を開催  
(千葉県本部)

Web版  
JA全農ウィークリーは  
こちらから



<https://www.zennoh-weekly.jp/>

4面

「和牛焼肉 信州そだち」  
長野市にオープン  
(フードマーケット事業部)



配送先変更(住所・宛名)、  
配布部数変更はこちら



<https://forms.office.com/r/yUWVHyVVtK>

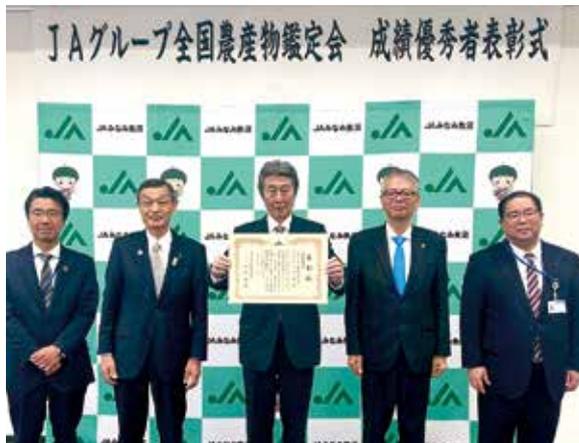
全農 ZEN-NOH

食と農を未来へつなぐ。

# JAグループ全国農産物鑑定会入賞者を表彰

## 検査技術の向上へ 33道県・74人の検査員が競う

米穀部



「JAグループ全国農産物鑑定会」の成績優秀者を表彰

全農は、全国JA農産物検査協議会との共催で3月11、12日に「令和6年度JAグループ全国農産物検査協議会」を開催し、後日、「JAグループ全国農産物鑑定会」の入賞者を表彰しました。

鑑定会は、農産物検査員の検査技術の向上と検査員の情報交換が目的です。19回目の今年度は、全国各地の予選会を勝ち抜いた33道県、74人の検査員が参加しました。

全国の銘柄米40点の等級を30分以内に鑑定しました。最優秀賞は宮田猛さん

(新潟・JAみなみ魚沼)で、優秀賞は菊地亮さん(福島・JA会津よつば)、橋本重信さん(佐賀・JAさが)、齋藤俊之さん(宮城・JA古川)、古俣泰孝さん(福島・JA会津よつば)が受賞しました。

最優秀賞の宮田さんは、

「生産者が1年かけて作ったお米に対して失礼があつてはならないと思つて検査をしてきた。この思いを大切に研鑽を深めたい」と語りました。

全農と同協議会は、今後もJAグループの農産物検査員の鑑定技術向上に向け、支援を続けていきます。

# TBS「AKASAKAあそび!学び!フェスタ」へ初出展

## 生乳生産がピークの春休みに酪農と牛乳の魅力をPR

酪農部



乳搾り体験をする来場者



飲み比べ用の牛乳を提供するキッチンカー

全農は4月4日から6日の3日間、東京都港区のTBS放送センター南公園で、乳搾り体験や「ご当地牛乳飲み比べ」などのイベントを初めて開催しました。このTBS「AKASAKAあそび!学び!フェスタ」はTBSが主催し、春休みの子どもたちに酪農や牛乳・乳製品に親しんでもらうことを目的としています。

模擬牛を使った乳搾り体験のほか、飼料に触れたり、においを嗅いだりする体験も提供しました。また、イラストを使って酪農家と交流し、酪農についての理解を深める活動も実施しました。

「ご当地牛乳の飲み比べでは、ミルクマイスター®高砂さんによる味の比較チャートと特徴コメントを参考に、産地や製法の違いを楽しみながら学んでもらいました。

イベントは3日間で、3万2000人の来場者でにぎわい、子どもたちには酪農と牛乳の魅力に触れながら「学ぶ楽しさ」を感じてもらうことができました。



## 県域の「農機事業構想研究会」を開催

農業機械事業の維持・強化に向けJAの専門職が結集

千葉県本部



JA農業機械部門の専門職が一堂に会し協議しました

農業生産に欠かすことのできない重要な役割を担う農機事業は、整備士などの高齢化や人材の確保・育成、施設の老朽化など、さまざまな課題が山積しています。千葉県本部は本所耕種資材部や新潟県本部など

千葉県本部は農業機械事業の維持・強化に向け、県内の農機取り扱い16JAとJA農機部門の専門職による「農機事業構想研究会」を1月に発足させました。3月14日に第2回研究会を開催し、県内のJA農機事業のあるべき姿を考え、課題解決に向けた具体策を協議しました。

農業生産に欠かすことのできない重要な役割を担う農機事業は、整備士などの高齢化や人材の確保・育成、施設の老朽化など、さまざまな課題が山積しています。千葉県本部は本所耕種資材部や新潟県本部など

と共に、今後の農機のあるべき姿を検討し、課題へ対応するため、研究会を立ち上げました。第2回研究会では、県内JAが一堂に会し、千葉県農機事業の市場規模の算出や農機に従事する職員数などの現状分析を行いました。また、千葉県農機のあるべき姿や理念・位置付けについて協議しました。

JAからは「各JAの課題は喫緊のもの。より良い構想に向けて協議を進めたい」と前向きな意見が聞かれました。

今後も地域農業を守り、組合員の営農活動を支えていくために、持続可能なより良い農機事業の実現を目指して一丸となって取り組んでいきます。



## 秋田県立大学新入生を「食」で応援

秋田県産「サキホコレ」のパックライスをプレゼント

秋田県本部



県本部職員が一人一人に「サキホコレ」パックライスを手渡し

この取り組みは、県内消費者への農業理解醸成に向けた「eat AKITAプロジェクト」の一環。県外から引越してきた人、ひとり暮らしを始める人、そして実家から通学する人など新たな一歩を踏み出す新

秋田県本部は4月7日、秋田県立大学の新入生に「食」でエールを贈る企画として、秋田市内で行われた入学式で秋田県産「サキホコレ」を使用したパックライスをプレゼントしました。

入生に、「おいしい秋田米を食べて新生活の活力にしてほしい」という思いを込めて実施しました。

職員が「ご入学おめでとうございます。サキホコレを食べて頑張ってください」と新入生を激励しながら配布しました。秋田での学生生活が秋田県産農畜産物でより豊かになるよう応援していきます。



「サキホコレ」を食べて学生の皆さんが咲き誇りますように

News!



## 良品計画と広島県産野菜の魅力発信

### 湯崎知事に取り組み報告、「ベジミル測定」もPR

広島県本部



(上)湯崎知事(右から2人目)を表彰訪問

(下)「ベジミル測定」について説明



広島県本部は株式会社良品計画と連携し、「3R(さん・あーる)」の循環野菜をはじめとする広島県産野菜を販売しています。4月8日には広島県の湯崎英彦知事を訪問し、取り組みの説明と野菜の摂取度が分かる「ベジミル測定」を行いました。

表敬訪問では、3R循環野菜の小松菜を栽培する福田卓己さんが、畜産たい肥を使ったメリットなどを説明しました。また、湯崎知事が「ベジミル」で野菜の摂取度を測定し、標準値となる「C」という結果となりました。湯崎知事は「県産の野菜を食べてベジミルの数値が上がるように、県

民に一生懸命PRしたい」と話しました。また今年度からは「ひろしまの旬を楽しむ野菜市」ベジミル測定会」と題し、野菜の摂取度が手軽に測れる「ベジミル」を使い、消費者の健康増進や「3R」の認知度拡大に向けて、月に1回イベントを共同で開催します。

4月20日の第1回「ひろしまの旬を楽しむ野菜市」ベジミル測定会」では、3店舗で約300人がイベントに参加し、大いに盛り上がりました。参加者は「県産野菜を食べて、野菜の摂取度アップを目指したい」と話しました。

News!



## 「和牛焼肉 信州そだち」長野市にオープン

### 全農グループ直営49店舗目、長野県産食材にこだわり

フードマーケット事業部

全農は、5月7日に直営飲食店舗「和牛焼肉 信州そだち」を長野市に新規開業しました。全農グループでは、国産農畜産物の消費拡大・PR強化や外食産業における国産農畜産物の利用拡大を促進するため、直営飲食店舗を展開しています。

オープンした「和牛焼肉 信州そだち」は、全農グループ直営では累計49店舗目になります。長野県が誇るブランド和牛「信州和牛」を1頭買いし、さまざまな部位の肉のおいしさを味わえるように盛り合わせや食べ比べメニューを用意しています。

また、肉との相性が抜群の米は、氷温領域で一定期間熟成させることでより一層おいしさが増す長野県産ブランド米「氷温熟成米(コシヒカリ)」を提供します。その他にも、ブランド豚「信州ポーク」や旬の野菜・きのこ・果物など長野県が誇る豊富な食材にこだわっており、地元のお客さまはもちろんのこと、ビジネス・観光などさまざまなシーンで利用できます。



長野市にオープンした「和牛焼肉 信州そだち」



人気の「そだち」五つ星ランチ

信州そだち店舗情報





# 持続可能な事業体制の確立へ

## 農機事業を一体運営、果実袋工場を拡大

鳥取県本部は、農機事業の一体運営や果実袋工場の事業拡大など、持続可能な事業体制の整備・運営改善に取り組んでいます。農機事業一体運営は、2023年7月から開始しました。また、果実袋の製造力強化にも取り組んでおり、23年には民間の果実袋製造会社の事業を引き継ぎ、高品質な袋を安定的に製造するために新たな袋製造機も導入しました。

### JA子会社と農機事業分業制 専門性を生かし効率的運営

深刻化する人材不足や技術継承、収支改善などの課題に対応するため、JA鳥取中央の子会社である株式会社JA中央サービスの農機部門と一体となり、分業制による専門性

を生かした効率的な運営や質の高いサービスの提供に努めています。また、持続可能な農機事業基盤の確立に向けて取り組んでいます。

一体運営後、商品知識や修理・整備技術の向上、機械の大型化や高性能化に対応できる人材育成を目的として、各種研修会・講習会を企画・実施しています。



1



2

1 JA 担当者の農機研修風景  
2 農機事業一体運営出発式の様子

また、コンプライアンス意識のさらなる醸成のための研修会や、在庫管理、債権管理、接客対応など担当者向けの研修会も実施しています。

今後は、営業

推進・修理整備の担当制導入や、県内統一の展示会の実施などを予定しています。組合員のニーズを的確に把握し、きめ細かな対応を行うことで、組合員にとってなくてはならない存在となることを目指しています。

### 「安心して使える果実袋」 新製品を開発、製造力強化

鳥取県本部の果実袋工場は、生産者の「安心して使える果実袋を我々の手で」という願いによって設立されました。本工場で生産された果実袋は、全国の果樹生産地で広く使用されています。

果実袋は果実を病虫害から守り、生育促進や色ぞろいを良くするための栽培資材であり、栽培の現場で欠かすことのできない存在です。特に鳥取県の特産品である二十世紀梨の美しい外観を上げるためには必須の資材です。23年には、民間の事業を引き継いで、高品質な果実袋を安定的に製造するために新たな袋製造機も導入しました。この取り組みにより、製造速度

の向上やロス減少を図っています。

また、原材料価格の上昇や栽培面積の減少に伴う製造数量減少などのコスト増加に対応するため、低コスト袋の研究開発や既存製品の改良にも取り組んでいます。

新製品の開発や製造力の強化を通じて、鳥取県内外の梨や果実の安定生産に貢献できるような努めています。



4



3

3 果実を病虫害から守る果実袋  
4 新たに導入した製袋機

# 営農管理「Z-GIS」と防除支援「レイミー」



「農業データの  
簡単な記録 &  
可視化」  
が可能に



## 5月から記録機能の 連携サービスがスタート

全農は、2025年5月からJA全農営農管理システム「Z-GIS」と日本農業株式会社「レイミー」のAI病害虫雑草診断（以下「レイミー」）の連携を開始しました。この連携により「地域の農業データの簡単な記録&可視化」が可能になりました。

「Z-GIS」は全農が提供する営農管理システム、「レイミー」は日本農業が提供する防除支援ツールです。2025年5月から「Z-GIS」と「レイミー」に新たに「記録機能」を搭載し、この機能を連携させる新サービスを開始しました。

新サービスは、地域の農業データの簡単記録&可視化をテーマに開発し、この連携により病害虫や雑草の対策や農作業の効率的な記録が実現し、農業現場での課題把握が飛躍的に向上することが期待されます。

本機能は「Z-GIS」ユーザーが、「レイミー」連携に係るオプション（有料）を申し込むことにより利用が可能となります。

### 1 サービス開発の背景

近年、気候変動や物流の活発化により、地域外から侵入する病害虫や雑草の発生・拡散が問題となっており、この課題に対応するため、病害虫や雑草の発生情報をできるだけリアルタイムに把握・管理するニーズが高

まっています。

また、農業現場で防除管理を担う普及指導員やJA指導員の人手不足が深刻化する中、パソコンやスマートフォンの操作が苦手な方でも簡単に利用できるツールの必要性が高まっています。全農と日本農業は、誰でも簡単に使えるサービスを開発するため今回の連携を進めてきました。

### 2 システム連携の概要

「Z-GIS」と「レイミー」のシステム連携によるデータの記録、データの可視化のイメージは「図」とおりです。「レイミー」で記録した内容を「Z-GIS」で集約し可視化することが可能になります。

### 3 記録機能の概要

「レイミー」には、スマートフォンで撮影した画像に病害虫や雑草、作業内容をタグ情報と一緒に簡単に記録できる新しい「記録機能」が搭載されました（2025年3月実装）。この機能は、スマートフォン操作に不慣れな方

【図】地域の農業データ 簡単記録&可視化

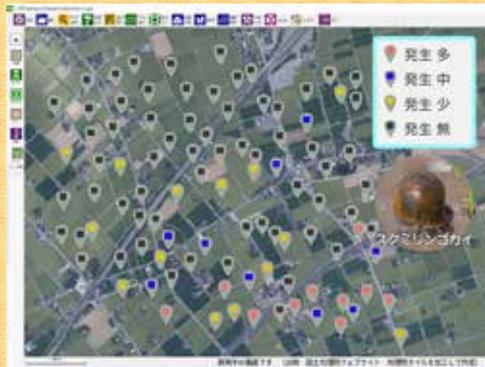


も簡単に使えるように設計されており、位置情報や日時が自動で取得されるため、農業現場でのデータ管理がより手軽になりました。「Z-GIS」ユーザーは「レイミー」ユーザーの認証を受けることで、「レイ

# 想定される主な活用シーン

## 病害虫の分布状況の把握

圃場の病害虫発生情報がタイムリーに収集され、病害虫の拡散リスクを迅速に評価できます。



病害虫の分布状況の把握活用イメージ

## 簡易な農作業記録と管理

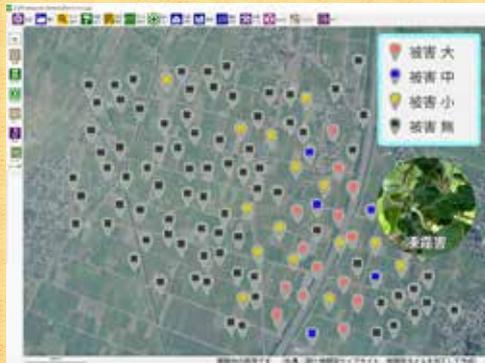
圃場で写真を撮るだけで農作業の記録をすることができます。圃場の作業情報が一元的に管理され、農作業の進捗状況を把握しやすくなります。



簡易な農作業記録と管理活用イメージ

## 災害時の迅速な被害の把握

霜や大雨などの災害情報も簡単に記録でき、迅速な被害把握をすることができます。これにより効果的な対策の検討が可能になります。



災害時の迅速な被害の把握活用イメージ

### レイミーユーザーとの連携によるイメージ



「レイミー」の記録機能のデータを「Z-GIS」で取得できるようにします。複数ユーザーから取得された記録データはタグ情報、写真情報と共に「Z-GIS」の地図上に表示されます。これにより、指導員や農業者が地域全体の状況を簡単に把握し、作業や病害虫対策の判断に役立てられます。

※本連携は完全な承認制です。不特定多数に「レイミー」のデータが無断利用されることはありません。

## 4 システムについて

「Z-GIS」は全農が提供する営農管理システムです。高精細な地図上にマウス操作で簡単に圃場ポリゴン(区画情報)が作成でき、そこにユーザーが登録したい情報をエクセル形式で入力しひも付けることで、圃場の位置と営農情報を効率的かつ自由度高く管理できるようになります。「スマート農業のプラットフォーム」としてJAG

ループの担い手サポーターであるTACを中心に普及活動を展開中です。

「レイミーのAI病害虫雑草診断」は日本農業が2020年にリリースしました。日本農業と株式会社NITデータCCSが共同開発したAIを活用したスマートフォン専用の防除支援ツールです。作物や田畑に発生する病害虫や雑草を写真から診断し、表示された診断結果から利用者

が選択した防除対象に有効な防除薬剤の情報を提供します。

本連携により、病害虫や雑草の対策や農作業を効率的に記録し、現場での課題の把握が飛躍的に向上することが期待されます。今回の新機能との連携について詳細情報や導入に関するご相談も承っています。

問い合わせ先

JA全農 耕種総合対策部スマート農業推進課 TEL 03-6271-8274 MAIL zz\_zk\_smart@zennoh.or.jp

## 「エコープ 水出し煎茶 紫鳳ティーバッグ」新発売

国産一番茶100%使用! 三角ティーバッグで効率よく抽出

全農は、夏の暑い時期にご利用いただくため、6月1日に国産一番茶を100%使用したエコープマーク品の新商品「エコープ水出し煎茶 紫鳳<sup>しほう</sup>ティーバッグ」を発売します。 【くらし支援部】

国産一番茶の茶葉を100%使用し、雑味が少なく甘味がしっかり感じられるぜいたくな味わいに仕上げました。低温でじっくりとうま味を引き出す水出しはもちろん、お湯でもおいしく抽出できます。

立体的な三角ティーバッグを使用しているため抽出効率が良く、準備も後片付けも簡単です。忙しい毎日にもぴったりで500円相当り約30円と経済的です。急須を使う家庭が減少する中、国産茶のおいしさをもっと広めたいという思いを込めました。



新商品の「エコープ 水出し煎茶紫鳳ティーバッグ」

## 「富山県産呉羽梨グミ」を新発売

上品な甘さと爽やかな香り



全農と全国農協食品(株)は「ニッポンエールグミ」の新商品として、ニッポンエール「富山県産呉羽梨グミ」を開発しました。富山県内JAの直売所などで5月20日から販売しています。

【営業開発部・富山県本部・全国農協食品】

ニッポンエール「富山県産呉羽梨グミ」は、富山県本部が供給した富山県産「呉羽梨」の果汁を原料に使用しています。「呉羽梨」は、富山県呉羽丘陵で栽培される梨のブランド名です。

代表品種である「幸水」は、果汁たっぷり、歯ざわりがよく、甘味が強いのが特徴です。呉羽梨の上品な甘さと爽やかな香りを味わえるグミに仕上げました。



ニッポンエール新商品 「富山県産呉羽梨グミ」

JA全農の産地直送通販サイト



JAタウン ショップ紹介



### しまねうまいもんくらぶ

島根県では、より大きくおいしいアムスメロンを育てるために、メロンを地面にはわせずに立ち上げ、さらに玉づくりする「立体栽培」という方法で栽培しています。さらに1本に1果だけを育てることでおいしさが凝縮され、糖度14に達する甘くてジューシーなメロンが生まれます。

到着後に箱から出し、常温で保管しながら果実の下部を押して弾力が出たら食べ頃です。室温で追熟させた後、食べる2~3時間前に冷蔵庫で冷やすことが推奨されていますが、冷やしすぎると味が落ちるため注意が必要です。



島根県産 アムスメロン 5kg 箱 … 6130円(税込み)

ご注文はこちらから



▶ JAタウンはこちらから <https://www.ja-town.com>  
▶ お問い合わせは ☑ [shop@ja-town1.com](mailto:shop@ja-town1.com)

